

# 若い介護者専門支援

20代も対象 神戸市が部署新設

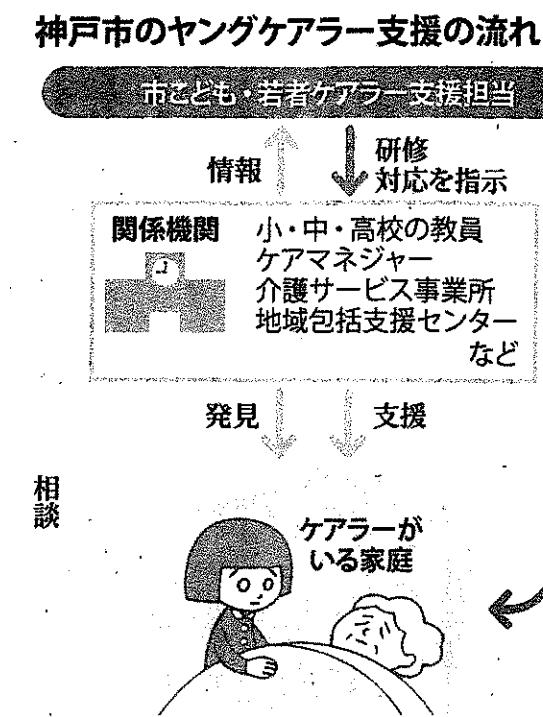
通学や仕事をしながら家族の介護や世話をし、「ヤングケアラー」と呼ばれる子供や若者を支援する専門部署を、神戸市が4月に新設する。「社会から見えにくく」とされる中、本人や周囲で気付いた関係者からの相談・情報を受ける窓口をつくり、学校や福祉部局などの関係機関による支援をバックアップする。市によると、ヤングケアラー支援に特化した部署の設置は全国初という。

## ヤング ケアラー 幼き介護

10月、元幼稚園教諭の女性  
(29)が介護する祖母を殺害

神戸市内では2019年  
10月に毎日新聞が詳報したことなどを受けて市が支援策を検討。スクールソーシャルワーカーや当事者への聞き取りで、関係機関との連携の難しさや相談窓口

関係機関を集めて事例検討  
案の提示



小中学校の教員や、福祉関係者らへの研修も行い、今秋以降は当事者同士が交流できる場所づくりにも取り組む。支援窓口の相談員の入件費など事業費1500万円を21年度当初予算に盛り込み、3月末までに支援マニュアルを策定する方針。17日に記者会見した久元喜造市長は「専門家の意見を聞きながら一歩でも状況を改善したい」と述べた。

【反橋希美】

の必要性を指摘され、専門部署の新設を決めた。支援の対象は児童福祉法で子供と定義される18歳未満に限らず、20代の若者も加えた。市の福祉局内に「ひふみ・若者ケアラー支援担当」を設け、専任の課長を配置。6月に社会福祉士の有資格者3人による支援窓口を開設し、当事者の他、可能性がある子供や若者の存在を把握した学校などから電話で相談を受けたり、情報を収集したりする。関係機関を集め、当事者への福祉サービスの提案といった個別対応を指示し、定期的に事例検討会も開く。